「地方創生カレッジ in 小樽」（ワークショップ等成果のポイント）

1. 地域課題・テーマ

北海道の経済を先導してきた歴史を持つ中核都市としての復活を模索する「人口減少都市小樽市」における
＜地方創生を推進するエリアマネジメントの展開とそれを担う人材の育成＞

2. 現状と問題点、課題

（1）急激な人口減少（北海道2位の人口減少数（国勢調査2015～2020年比較））と2045年高齢化率52.1% (社人研推計)

（2）官民連携による取り組みの不足

（3）小樽市における地方創生を推進するエリアマネジメントの展開とそれを担う人材育成が当面の課題

3. 目指すべき方向性・将来像と実現に向けた具体的施策

（1）将来像：北海道の経済を先導してきた歴史を持つ中核都市としての復活

（2）具体的施策：小樽版デジタル田園都市構想の立案と実現

① 東京圏人口の一極集中を回避する関係人口の拡充に関わる事業（リモートワークオフィス・ワーケーションの仕組みづくり・移住・2地域居住づくり等）

② 稼げる都市づくり（固有産業の再生）・（東京圏企業拠点の移転推進）・（デジタル・アート系産業の創出・深化）等」・「安全安心なまちづくり（健康福祉・防災・デマンド型交通システム）」・「自然（海・山・雪）との共生を図るまちづくり」

「地方創生カレッジ in 小樽」（ワークショップ等の成果のポイント）

4. 今回のワークショップやディスカッションを通じて得た気づき（官民連携、人材交流の効果等）

（ア）地域構造変革を起こすための官民連携によるチームづくり

最初に、地域構造変革を起こすため、官民連携によるチームづくりが出来たかどうかについて検証する。まずは本事業では、中央地域5チーム、南小樽地域4チームで編成し、地域課題解決のためのプロジェクト立案に取り組んでもらった。そのチーム編成の際、参加者本人には、地域や取り組みたいテーマについて希望を聞き、行政やNPO等の公共セクターと、民間事業者等の民間セクターを意識し、運営側で編成を行った。しかしこれは、小樽では、これまでに同様の官民混合による地域課題解決のワークショップ等は行われたことがないようで、運営側でも勇気のいる方法であった。そこで小樽の人間関係など事情に詳しい複数の人に確認し、事前に出来る配慮は十分に行った。それでも、初めて顔を合わせる人が多く、さらに小樽以外の地域からの参加者もいるなど、不安要素は尽きなかった。しかし、本事業のワークショップの経過や最終発表を見ると、小樽における官民連携の取り組みの始まりとも言えるチームづくりが実現できたという声が、参加者はもちろんのこと、運営チームからも多数聞くことが出来た。以上から、当該視点については、一定の成果が得られたと考えられる。

(イ)デジタル田園都市国家構想を理解し、その要素を入れたプロジェクトの立案

次に、本事業の根幹となる考え方であるデジタル田園都市国家構想について、どれくらい理解し、参加者が立案したプロジェクト企画書にどのように要素が盛り込まれたかについて検証する。まず参加者の理解を促すため、予習復習として行った地方創生カレッジeラーニング「177：Society5.0の実現に向けた教育～「未来の教室」取り組み事例・EdTech等先進事例から学ぶ～」、「188：地域課題解決のためのデータ利活用」、「169：デジタルが社会・経済・産業・地方を変える」等、太田清澄氏「主題解説」や一言太郎氏による「デジタル化とまちづくり」、湊光行氏「IT技術の応用」等の講義によるインプットを行った。

さらに、参加者により立案されたプロジェクトを検証する。要素として確認できたことをキーワードにつぎに記載する。・通行人の位置情報データ活用、・ITベンチャー誘致・設立、・メタバース小樽市街地の開発、・メタバースを活用したEdTech事業運営、・歴史的建造物に関する情報のデータベース化、・デジタルスタンプラリー、・バーチャルアトリエ、・石蔵デジタルマップ、・HPやSNSを活用した情報発信、・空き家バンクのオープンソース化、・観光促進アプリの開発（待ち時間や予約等）、・自動運転による2次交通整備、・ロボットレストラン、・電子観光パンフ作成、・ドローン免許取得、・3Dマップアプリと連動した2次交通や徒歩観光の促進。以上、すべてのチームに要素が見られた。外観すると、観光に関するDXがほとんどを占めており、観光への関心と課題意識の高さが感じられた。それ以外では、石蔵等の歴史的建造物や空き家といった地域資源の活用、2次交通、教育分野におけるデジタルの活用が見られた。

（ウ）エリアマネジメントの考え方と手法を理解しアイデアを挿入すること

最後に、エリアマネジメントの考え方と手法についてであるが、インプットとしては、地方創生カレッジeラーニング「160：エリアマネジメント～立ち上げから自走まで～」、「142：観光地経営の理解と実践」、「156：観光による地域経済循環と観光地域経営」等、白鳥健志氏「エリアマネジメントとは？～理論と実践～」、西村浩氏「シビックプライドのデザイン（まちづくり）」、池ノ上真一「観光まちづくり～観光学から」の講義を行った。

次に参加者により立案されたプロジェクトにおいては、エリアマネジメントに必要なエリア設定やマネジメント組織、財源、活動内容等については、すべてのチームが最低限の内容が挿入されていた。しかし、実現可能性を高めたレベルまで到達しているものはほとんど見当たらず、今後の実証実験やビジネスモデルへの理解といった取り組みが必要であると考えられる。

「地方創生カレッジ in 小樽」（ワークショップ等成果のポイント）

5. 成果スキーム図

01　到達目標

エリアマネジメント
基本的能力の修得

1. まちづくりデザインの能力
2. 組織づくりの能力（人的資源分析・資金計画・マネジメント力）
3. 関連法規・施策に関わる解析力（上位計画・国の政策・予算等）等
4. 地域固有資源＆地域課題に係る分析力

02　本事業成果

成果評価

1. 地域構造変革を起こすための官民連携によるチームづくり
2. デジタル田園都市国家構想を理解し、その要素を入れたプロジェクトの立案
3. エリアマネジメントの考え方と手法を理解しアイデアを挿入すること

03　次のステップ

必要な事業

1. 社会実験をとおした地域ニーズの検証
2. マネジメント組織の実稼働
3. ビジネスモデルや官民連携手法等に関する更なる学び